

瀬戸岡 紘 先生 略歴／研究業績一覧

略 歴

1945年5月1日 東京生まれ

学歴

1968年3月 早稲田大学第一商学部卒業

1970年3月 早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了

1975年3月 早稲田大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学

1987年3月～1988年3月 在外研究（アメリカ・コロラド大学行動科学研究所）

1997年7月～1997年9月 在外研究（アメリカ・コロラド大学行動科学研究所）

2007年7月～2007年9月 在外研究（アメリカ・コロラド大学行動科学研究所）

職歴

1968年4月～1975年3月 麻布中学校・高等学校などで非常勤講師

1975年4月～1977年3月 東京都立町田高等学校教諭

1977年4月 駒澤大学経済学部専任講師

1981年4月 同 助教授

1987年4月 同 教授

1977年以降、早稲田大学政治経済学部、同法学部、中央大学商学部、横浜市立大学商学部、一橋大学経済学部、東京農業大学農学部、大妻女子大学社会情報学部、札幌学院大学、高知県立大学、法政大学大学院などで非常勤講師／兼任講師

研究業績

<著書>

『アメリカ 理念と現実——分かっているようで分からないこの国を読み解く——』, 時潮社, 2005年

<共編著書>

『グローバル時代の貿易と投資』, 板垣文夫・岩田勝雄・瀬戸岡紘編, 桜井書店, 2003年

<共著書 / 共同執筆書>

「現代アメリカの経済政策」, 『経済政策論の展開』, 松原昭編著, 文眞堂, 1978年

「アメリカ企業合同運動の歴史的展開」, 『多国籍企業経営論』, 岩尾裕純編著, 日本評論社, 1979年

「多国籍企業による科学技術革命の成果の応用」, 『多国籍企業経営論』, 岩尾裕純編著, 日本評論社, 1979年

“The Globalization of Japanese Economy——A Summary of the International Symposium”, *The Globalization of Japanese Economy: The International Symposium for the Fortieth Anniversary of Economics Faculty*, Komazawa University, 1989

「グリーンバーグのアメリカ政治経済論」, 『危機における現代経済の諸相』, 柿崎・草間・増田編著, 八潮社, 1992年

「資本主義発達史研究とアメリカ・ラディカル派のアプローチ —— グリーンバーグおよびSSA学派の所論を中心に ——」, 『経済史・経営史研究の現状』, 大塚勝夫編著, 三嶺書房, 1996年

「冷戦終結の世界史的意義とソ連崩壊 —— 帝国主義世界大戦とボリシェヴィズムの時代の終焉 ——」, 『ソ連崩壊と新しい社会主義像』, 石井伸男・村岡到編著, 時潮社, 1996年

「戦後世界とアメリカ経済の変化」, 『21世紀の国際経済 —— グローバル・リージョナル・ローカル ——』, 岩田勝雄編著, 新評論, 1997年

「現実からはじめて現実にかえっていく授業 —— アメリカ経済論の授業をとおして ——」, 経済学教育学会編『大学の授業をつくる —— 発想と技法 ——』, 青木書店, 1998年

「世界の支配者としてのアメリカ中産市民」, 社会主義理論学会編『グローバリゼーション時代と社会主義』, ログス社, 2007年

「中流市民層と社会変革 —— ソ連崩壊20年のいま考える ——」, ソ連邦崩壊20年シンポジウム論文集『歴史の教訓と社会主義』, ログス社, 2012年

「近代社会と市民にかんする一般理論序説 —— 新しい社会主義像を構築する手がかりをもとめて ——」, 社会主義理論学会編『資本主義の限界と社会主義』, 時潮社, 2012年

「資本主義の発展と遠ざかる建国の理念」, 中本悟・宮崎礼二 編『現代アメリカ経済分析——理念・歴史・政策——』, 日本評論社, 2013年

「アメリカ市民と宗教」, 中本悟・宮崎礼二 編『現代アメリカ経済分析——理念・歴史・政策——』, 日本評論社, 2013年

「アメリカ資本主義と世界——その全体像を把握する研究課題——」, 『マルクス経済学と現代資本主義——独占研究会創立50周年記念出版——』, 桜井書店, 2015年

<翻訳書>

『資本主義とアメリカの政治理念』, エドワード・S・グリーンバーグ著 (英語: Greenberg, Edward S., *Capitalism and the American Political Ideal*, M. E. Sharpe, N. Y., 1985), 青木書店, 1994年

『ファシズムの解剖学』, ロバート・パクストン著, (英語, Robert Paxton, *The Anatomy of Fascism*, Alfred A. Knopf, New York, 2004), 桜井書店, 2008年

<監訳書>

『アナリティカル・マルクシズム——平易な解説——』, トム・メイヤー著 (英語: Mayer, Tom, *Analytical Marxism*, Sage Publication, 1994), 桜井書店, 1995年

<共訳書>

『労働者統制の理論と歴史』, V・A・ヴィノグラードフ著 (ロシア語: Виноградов, В. А., *Теория и История Работий Контроль*), 副島種典監訳, 大月書店, 1979年

<論文・論説>

「戦前の日本における国家独占資本主義」, [卒業論文 = 早稲田大学商学部 1967年度懸賞論文・銀賞], 1968年

「現代資本主義研究の方法論にかんする一考察」, [修士論文], 1970年

「多国籍企業と現代世界経済」, 早稲田大学大学院商学研究科院生自治会『商経論集』第24号, 1973年

「世界資本主義の戦後段階」, 早稲田大学大学院商学研究科院生自治会『商経論集』第26号, 1974年

「ソ連における現代帝国主義研究」(上), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第501号, 1974年

「ソ連における現代帝国主義研究」(下), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第502号, 1974年

「アメリカ新鋭科学技術と戦後の世界経済」, 早稲田大学大学院商学研究科『商学研究科紀要』創刊号, 1974年

- 「世界資本主義の危機とその体系的研究」, 早稲田大学大学院商学研究科院生自治会『商経論集』第28号, 1975年
- 「社会主義世界体制の成立と資本主義の全般的危機の深化」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第522号, 1975年
- 「いわゆる『多国籍企業』の対社会主義世界進出について」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第538号, 1977年
- 「第一次世界大戦と帝国主義」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第11巻第3・4号, 1979年
- 「アメリカ資本主義の歴史的転換」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第12巻第3・4号, 1980年
- 「ソ連共産党第26回大会にたいする諸報告に接する視角」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第591号, 1981年
- 「レーガン『予算教書』にしめされた危険な本質」, 財団法人アジア・アフリカ研究所『アジア・アフリカ研究』, 第22巻第2号, 1982年
- 「戦後アメリカ資本輸出分析の視角」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』, 第14巻第2号, 1982年
- 「ソ連社会主義にたいする若干のコメント」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第607号, 1982年
- 「現代資本輸出分析の理論的諸前提」, 駒澤大学『駒澤大学経済学部研究紀要』第41号, 1983年
- 「ソ連における現代帝国主義研究——その公式主義的傾向の検討——」(上), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第601号, 1983年
- 「ソ連における現代帝国主義研究——その公式主義的傾向の検討——」(中), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第602号, 1983年
- 「ソ連における現代帝国主義研究——その公式主義的傾向の検討——」(下), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第603号, 1983年
- 「マルトウイノフ氏の講演をきいて」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第628号, 1984年
- 「現代資本輸出論と現代世界の経済構造」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第15巻第3・4号, 1984年
- 「現代資本主義の総体的把握について」, 駒澤大学『駒澤大学経済学部研究紀要』第44号, 1986年
- 『全般的危機』論と『パックス・アメリカーナ』論(上), 財団法人政治経済研究所『政経研究』第61号, 1986年
- 『全般的危機』論と『パックス・アメリカーナ』論(下), 財団法人政治経済研究所『政経研究』第62号, 1987年
- 「ゴルバチョフの世界観と『全世界経済』論争」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第658号, 1987年

- 「現代世界経済の総体把握と矛盾把握」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第18巻第4号, 1987年
- “On the Framework of the Study of World Economy”, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第19巻第4号, 1988年
- 「経済学とペレストロイカ」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第699号, 1990年
- 「新経済学教科書と『全世界経済』論」, 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第702号, 1990年
- 「冷戦体制の終焉とポリシェヴィズム」, 財団法人政治経済研究所『政経研究』第61号, 1990年
- 「アメリカ・ラディカル派アプローチからの問題提起」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第26巻第2号, 1994年
- 「冷戦終結の世界史的意義 —— 帝国主義戦争の時代の終焉としての冷戦の終結 —— 」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第26巻第3号, 1994年
- 「国際化時代にこたえる日本語を」, 財団法人カナモジカイ『カナノヒカリ』第866号, 1995年
- 「未完成の数字表記によせて」, 財団法人カナモジカイ『カナノヒカリ』第867号, 1995年
- 「アメリカにおける国際経済研究の再検討 —— ラディカル派の世界経済観を中心として —— 」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第27巻第2号, 1995年
- 「アメリカ・ラディカル派の論理構造 —— E. S. グリーンバーグの所論を中心に —— 」, 『カオスとロゴス』第4号, ログス社, 1996年
- 「アメリカ・ラディカル派アプローチの基本構成と世界経済論 —— グリーンバーグ, E. S. の所論を手掛かりとして —— 」, 中央大学商学研究会『商学論纂』第37巻第3・4号, 1996年
- 「講義の方法についての二・三の経験 —— アメリカ経済論の講義をとおして —— 」, 経済学教育学会『経済学教育』第15号, 1996年
- 「アメリカとは何か1 建国の理念と現実」, 『カオスとロゴス』第6号, ログス社, 1996年
- 「TOM MAYER, *ANALYTICAL MARXISM* をめぐって —— 分析的マルクス主義を概観する —— 」, 『経済と社会』第6号, 時潮社, 1996年
- 「アメリカとは何か2 たくさんの政府がつくる共和国」, 『カオスとロゴス』第7号, ログス社, 1997年
- 「アメリカにおける最近の研究動向 —— ラディカル派の国際経済理解を中心に —— 」, 財団法人政治経済研究所『政経研究』第69号, 1997年
- 「アメリカとは何か3 アメリカと資本主義」, 『カオスとロゴス』第8号, ログス社, 1997年
- 「アメリカ・カナダの研究者が見る現代経済の諸相」, 『経済と社会』第12号, 時潮社, 1998年
- 「アメリカとは何か4 積極国家の出現と冷戦」, 『カオスとロゴス』第10号, ログス社, 1998年
- 「ボウルダーからながめるアメリカ」, 佐藤定幸教授退職記念随筆集『佐藤定幸とともに』, 1998年

- 「資本主義経済システムとアメリカの地位 —— 21世紀はアジアの時代かアメリカの世紀か —— 」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第29巻第3・4号, 1998年
- 「アメリカとは何か5 社会に浸透する宗教」, 『カオスとロゴス』第12号, ログス社, 1998年
- 『「ニューエコノミー」論をめぐってゆれる諸見解 —— コロラド大学でのヒヤリングと分析を中心に —— 」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第30巻第2・3号, 1999年
- 「アメリカとは何か6 アメリカ社会とキリスト教」, 『カオスとロゴス』第14号, ログス社, 1999年
- 「20世紀末アメリカ経済の新しさとは —— 『ニューエコノミー』論のなげかけた諸問題 —— 」, 財団法人政治経済研究所『政経研究』第72号, 1999年
- 「アメリカとは何か7 アメリカの大学」, 『カオスとロゴス』第16号, ログス社, 2000年
- 「就職難時代と大学教育 —— ゼミづくりから得た教訓を中心に —— 」, 経済学教育学会『経済学教育』第19号, 2000年
- 「経済の新しい時代はきているのか —— 現下アメリカの好況をめぐる議論によせて —— 」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第31巻第4号, 2000年
- 「アメリカとは何か8 アメリカ人の消費と商業」, 『カオスとロゴス』第17号, ログス社, 2000年
- 「マルクスと21世紀 —— キューバで国際シンポジウム —— 」, オルタフォーラムQ『QUEST』第8号, 2000年
- 「アメリカとは何か9 大統領とその選挙」, 『カオスとロゴス』第18号, ログス社, 2000年
- 「ボウルダーとコロラド大学」, オルタフォーラムQ『QUEST』第10号, 2000年
- 「アメリカとは何か10 アメリカの雇用と労働」, 『カオスとロゴス』第19号, ログス社, 2001年
- 「カナダ社会科学人文科学総合学会に参加して」, オルタフォーラムQ『QUEST』第15号, 2001年
- 「アメリカとは何か11 アメリカの農業」, 『カオスとロゴス』第20号, ログス社, 2001年
- 「アメリカにおける市民意識の変化 —— 2000年大統領選挙の接戦に見る —— 」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第32巻第2・3・4合併号, 2001年
- 「アメリカの大統領選挙はなぜ接戦となったか —— ふたたび凡庸な大統領がもためられる時代へ —— 」, 財団法人政治経済研究所『政経研究』第76号, 2001年
- 「アメリカとは何か12 グローバル経済に君臨するアメリカの金融」, 『カオスとロゴス』第21号, ログス社, 2002年
- 「アメリカとは何か13 アメリカの医療と福祉」, 『カオスとロゴス』第22号, ログス社, 2002年
- 「アメリカとは何か14 アメリカの家族と女性」, 『カオスとロゴス』第23号, ログス社, 2003年
- 「カナダでアメリカを議論する —— ハリファックスでの社会科学人文科学総合学会から —— 」, オルタフォーラムQ『QUEST』第27号, 2003年

- 「アメリカとは何か 15 市場経済と反テロ戦争を当然視する市民」、『カオスとロゴス』第 24 号，ロゴス社，2003 年
- 「イラク戦争はなぜ阻止できなかったか —— もとめられる先進国と非先進国の市民の連帯 —— 」，マスコミ市民『マスコミ市民』第 414 号，2003 年
- 「米欧における中産市民の新しい傾向 —— ひとつの問題提起 —— 」，政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第 179 号，2003 年
- 「市場経済への依存を強めたアメリカ市民 —— 20 世紀末不況と好況があたえた経済的効果 —— 」，駒沢大学経済学会『経済学論集』第 34 巻第 2 号，2003 年
- 「ハヴァナ国際会議『マルクスの業績と 21 世紀への挑戦』の報告 —— 差し迫る課題に焦点をあてた討論 —— 」，オルタフォーラム Q『QUEST』第 32 号，2004 年
- 「アメリカ単独行動主義の社会的経済的背景」，財団法人政治経済研究所『政経研究』第 82 号，2004 年
- “The Economic and Social Backgrounds of Neo-Liberalism and U. S. Unilateralism”，駒沢大学経済学会『経済学論集』第 36 巻第 1 号，2004 年
- 「いま流行の『帝国』論について」，駒沢大学経済学会『経済学論集』第 36 巻第 2 号，2004 年
- 「市民の帝国と帝国主義 —— いま，「帝国主義」の意味を問いなおす —— 」，オルタフォーラム Q『QUEST』第 34 号，2004 年
- 「学ぶことの多かったカナダの学会 —— カナダ人文科学社会科学総合学会に参加して —— 」，財団法人アジア・アフリカ研究所『アジア・アフリカ研究』第 44 巻第 3 号，2004 年
- 「アメリカとは何か 16 アメリカの貿易と世界貿易機関」、『カオスとロゴス』第 26 号，ロゴス社，2004 年
- 「世界に君臨する米国の中産市民 —— シリーズ〈学者が斬る〉第 241 回」、『エコノミスト』2005 年 12 月 6 日号，毎日新聞社，2005 年
- “The Economic and Social Backgrounds of Japanese Government's Cooperation with the United States: Why does Japan Dispatch the Self Defense Force into Iraq?”，駒沢大学経済学会『経済学論集』第 37 巻第 1 号，2005 年
- 「米欧系研究者と非米欧系研究者の深刻なすれ違いは克服できるのか —— ハヴァナ国際会議『マルクスの業績と 21 世紀への展望』に参加して —— 」，経済理論学会『経済理論』第 41 巻第 4 号，2005 年
- 「アメリカ大量消費社会とグローバリゼーション」，社会主義理論学会『社会主義理論学会会報』第 60 号，2006 年
- 「アメリカの中産市民こそ世界の支配者 —— 編集長インタビュー —— 」、『もうひとつの世界へ』第 4 号，2006 年

- 「ごく普通のアメリカ市民の生活感覚に接して」, 歴史教育者協議会『歴史地理教育』第704号(2006年9月号), 2006年
- 「グローバル経済下の格差拡大とアメリカの現状」, 政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第195号, 2007年
- 「いまこそ地球レベルでの消費削減を! —— ダカール国際会議での報告から ——」, 『もうひとつの世界へ』第7号, 2007年
- 「クラシック音楽が消滅したアメリカ」, 『もうひとつの世界へ』第10号, 2007年
- 「経済時評: サブプライムローン問題に何を見るか —— 金ある者のゲームと化した新自由主義経済 ——」, 『もうひとつの世界へ』第13号, 2008年
- 「今日のアメリカ経済・社会事情にかんする断章集 —— 他の諸国の事例との比較をとおして ——」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第40巻第1号, 2008年
- 「アメリカはほんとうに変わるのか —— アメリカの深層事情とオバマ新政権 ——」, 21世紀国際交流会インターネットサイト掲載, 2008年
- 「海外学会動向: 世界政治経済学会第3回大会について」, 経済理論学会『経済理論』第45巻第3号, 2008年
- “An Essay toward a General Proposal for the Consumption Reduction Policy among the Developed Countries: From a Global Point of View of the Class Analysis”, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第39巻第3号, 2008年
- 「経済時評: 三重の悪乗りと三層の行き過ぎ —— 現下の金融危機を歴史のなかに位置づける ——」, 『もうひとつの世界へ』, 第18号, 2008年
- 「アメリカはほんとうに変わるのか —— アメリカの深層事情とオバマ新政権 ——」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第40巻第4号(同名のインターネットサイト掲載原稿の改訂増補版), 2009年
- 「現下の金融危機の実相と歴史的 position —— 社会主義理論学会第51回研究会報告 ——」
社会主義理論学会『社会主義理論学会会報』2009年4月刊行号, 2009年
- 「オバマ新政権でアメリカは変わるのか —— オバマをささえる人びと, アメリカを動かす力が手
がかりに ——」, 財団法人政治経済研究所『政経研究』第92号, 2009年
- 「地球規模での政治経済の民主的変革を探求 —— 世界政治経済学会第4回パリ大会に参加して ——」, 基礎経済科学研究所『経済科学通信』第120号, 2009年
- 「地球規模での経済の民主的運営の探求 —— パリでの世界政治経済学会に参加して ——」, 『Plan B』第22号, 2009年
- 「落書きに埋めつくされる街パリ —— その意味するところは? ——」, 『Plan B』第24号, 2009年

- “The Worldwide Consumption Reduction Policy as the Distinguished Comprehensive Strategy against the Contemporary Economic and Political Problems : For the Protection of Nature as well as Culture and Human Life”, 大妻女子大学紀要 —— 社会情報系 —— 『社会情報学研究』 第 18 号, 2009 年
- 「戦後世界資本蓄積過程のひとつの総括としての現下の世界経済恐慌」, 駒沢大学経済学会 『経済学論集』 第 41 巻第 1・2 号, 2010 年
- 「世界経済恐慌と低成長経済の展望」, 『Plan B』 第 26 号, 2010 年
- 「海外学会動向 : The World Association for Political Economy (世界政治経済学会) 第 5 回大会に参加して」, 経済理論学会 『経済理論』 第 47 巻第 3 号, 2010 年
- 「資本主義の危機と社会主義の展望について検討 —— 世界政治経済学会の大会に参加して —— 」, 『Plan B』 第 29 号, 2010 年
- 「インターネット時代とアラブ諸革命」, 『京葉いきいき』 第 4 号, 2011 年
- 「アメリカ建国の理念に立ちかえろうとする中流市民たち —— オバマ大敗の背景の事情から何を学ぶか? —— 」, 財団法人政治経済研究所 『政経研究』 第 96 号, 2011 年
- 「新自由主義には何を対置すべきか —— 世界政治経済学会第 6 回大会に参加して —— 」, 『Plan B』 第 34 号, 2011 年
- 「なぜ原発をやめるべきなのか —— 原爆開発の隠れみものとして推進されてきた原発について考える —— 」, 『京葉いきいき』 第 7 号, 2011 年
- 「アメリカ建国の理念にみる市民の共同社会を再考する」, 季報唯物論研究刊行会 『季報唯物論研究』 第 118 号, 2012 年
- 「究極の市民運動としての全般的消費削減運動 —— ごく普通の人びとの力が資本主義的経済循環をのりこえる —— 」, 『Plan B』 第 37 号, 2012 年
- 「経済政策基盤の液状化がはじまったアメリカ —— 2012 年アメリカ大統領選挙をふりかえって —— 」, 日本科学者会議 『日本の科学者』 2013 年 2 月号, 2013 年
- “On the So-Called ‘Middle-Class Citizens’ as the Powers of Social Change”, The World Association for Political Economy, *The World Review of Political Economy*, Pluto Journals Co., London, No.1, 2013, April 2013
- 「シューベルトの歌曲にみるピアノ演奏の魅力」, フランツ・シューベルト・ソサエティ 『Franz Schubert Society』 第 46 号, 2013 年
- 「アメリカにおける貧困層増大・格差拡大の世界史的意義」, 『経済』 第 223 号 (2014 年 4 月号), 新日本出版社, 2014 年
- 「最近の世界各国にみる右傾化の動向について —— 日本の右傾化傾向をより幅広くより深く考察するために —— 」, 基礎経済学研究所 『経済科学通信』 第 136 号, 2015 年
- 「シューベルトをとおして 200 年前のヴィーン市民のこころを訪ねる —— フランツ・シューベルト・ソサエティ創立 20 周年記念ガラコンサートを聴いて —— 」, 『Franz Schubert Society』 第 50 号, 2015 年

「すべての戦争は国内矛盾の対外転嫁として勃発する」, 駒沢大学経済学会『経済学論集』第47巻第2号, 2016年

<共同執筆論文>

『多国籍企業』と現代世界経済, 早稲田大学大学院商学研究科院生自治会『商経論集』第24号, 1973年

<Социально-политическая роль военных в Китайском обществе> (Л.В. Забровская との共同論文) 駒沢大学経済学会『経済学論集』第45巻第1号, 2013年

<Вооруженные силы КНР: пути преодоления социальных проблем> (Л.В. Забровская との共同論文) 駒沢大学経済学会『経済学論集』第46巻第3号, 2015年

<翻訳論文>

「世界経済とソ連経済」(ロシア語, V・A・マルトウイノフ, В. А. Мартынов による講演 <Мировая Экономика и Экономика СССР> の翻訳), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第628号, 1984年

「イギリスにおける公益事業の民営化と規制 —— 日本への教訓をめぐって —— 」(英語, Wilks, Stephen, “Regulation of Privatized Utilities in Britain: Lessons for Japan?”), 駒沢大学経済学会『経済学論集』第27巻第4号, 1996年

「近年のグローバリゼーションと法人企業世界の構造変化」(英語, Carroll, William Kingsley, “Recent Globalization and the Changing Structure of Corporate Capital”), 駒沢大学経済学会『経済学論集』第31巻第3号, 1999年

<共訳資料>

「1990年までの期間のソ連の食糧計画 —— プレジネフ政権発表の政策」(ロシア語, Продовольственный Проект в СССР в Период до 1990 ソビエト研究所員によるロシア語共同翻訳作業), 財団法人ソビエト研究所『日ソ経済調査資料』第603号, 1982年

<書評>

田中敏弘編著『アメリカ人の経済思想 —— その歴史的展開 —— 』(日本経済評論社, 1999年), 土地制度史学会『土地制度史学』第171号, 2001年

明石紀夫著『モンティチェロのジェファソン —— アメリカ建国の祖父の内面史 —— 』(ミネルヴァ書房, 2003年), 政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第184号, 2004年

ジェラルド・コーエン著『あなたが平等主義者なら, どうしてそんなにお金持ちなのですか』(渡辺雅夫・佐山圭司訳, こぶし書房, 2006年), 東洋経済新報社『東洋経済』2007年1月27日号, 2007年

- 中本悟編『アメリカン・グローバリズム』（日本経済評論社，2007年），『経済』2007年8月号，新日本出版社，2007年
- 萩原伸次郎著『世界経済と企業行動——現代アメリカ経済分析序説——』（大月書店，2005年），政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第197号，2007年
- 松下 冽著『現代メキシコの国家と政治——グローバル化と市民社会の交差から——』（御茶の水書房・2010年），政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第214号，2012年
- 馬場宏二著「宇野理論とアメリカ資本主義」（御茶ノ水書房，2011年），経済理論学会『経済理論』第48巻第4号，2012年
- 宮野啓二著『南・北アメリカの比較的研究——南・北アメリカ社会の相違の歴史的根源——』（御茶ノ水書房，2013年），政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第226号，2015年
- 岡田暁生著『クラシック音楽はいつ終わったのか？——音楽史における第一次世界大戦の前後——』（人文書院，2010年），政治経済学・経済史学会『歴史と経済』

<所属学会>（入会順——すでに退会したものについては省略）

日本エスペラント学会（現在名：日本エスペラント協会）

政治経済学・経済史学会

経済理論学会

日本国際経済学会

比較経済体制学会

アメリカ学会

The Societies for Socialist Studies（カナダ：社会主義研究学会）

The Congress of Humanities and Social Sciences（カナダ：人文科学社会科学総合学会）

The World Association for Political Economy（世界政治経済学会）—— 理事

Think Tank for Political and Ethical Knowledge on Economic Activities (PEKEA)

経済学教育学会

社会主義理論学会

軍縮問題を考えるエコノミストの会（国際学会）

アメリカ経済史学会

<学会発表>

「アメリカ・ラディカル派アプローチからの問題提起とその限界」，経済理論学会第42回大会，立命館大学，1994年

- 「冷戦終結の世界史的意義」, 国際経済研究会第38回全国大会, 中央大学, 1994年
- 「アメリカにおける国際経済研究の再検討 —— ラディカル派の世界経済観を中心にして —— 」, 国際経済学会第54回全国大会, 関西大学, 1995年
- 「経済学の専門教育 —— アメリカ経済論のばあい —— 」, 経済学教育学会第12回大会, 中京大学, 1996年
- 「グリーンバーグの政治経済論とアメリカ・ラディカル派のアプローチ」, 中央大学社会科学研究所・公開研究会, 中央大学, 1996年
- “Rethinking Marxism” (discussant), International Conference for Rethinking Marxism, City University of New York (CUNY), New York City, USA, 1999
- 「経済の新しい時代はきているのか —— 現下アメリカの好況をめぐる議論によせて —— 」, 国際経済研究会関東部会, 明治大学, 1999年
- 「就職大競争時代の大学教育について —— ゼミづくりを中心に —— 」, 経済学教育学会第15回大会, 富山大学, 1999年
- “Marxism Today” (discussant), International Conference for Marxism Today, Havana University of Art, Havana, Cuba, 2000
- 「グローバリゼーションをめぐって —— ジョン・グレイおよびサスキア・サッセンの所説ならびにハヴァナ国際学会での論点を中心に —— 」, 関東学院大学経済研究所公開研究会, 関東学院大学, 2000年
- 軍縮問題を考えるエコノミストの会 (討論者), 2000年度世界大会, 国際連合大学, 東京, 2000年
- 「アメリカ大統領選挙はなぜ接戦になったか」, 財団法人政治経済研究所公開研究会, 東京大学, 2001年
- 軍縮問題を考えるエコノミストの会 (討論者), 2001年度世界大会, 国際連合大学, 東京, 2001年
- 「米欧における中産市民の新しい傾向 —— ひとつの問題提起 —— 」, 共通論題報告, 土地制度史学会2002年度秋季学術大会, 千葉大学, 2002年
- 「アメリカ単独行動主義の社会的経済的背景」, 経済理論学会第51回大会, 武蔵大学, 2003年
- “The Economic and Social Backgrounds of Neo-Liberalism and U. S. Unilateralism”, Plenary Speech of the International Conference [全体会=共通論題報告]: “The Work of Karl Marx and the Challenge to the 21st Century”, Palacio International Conference Center, Havana, Cuba, 2004
- 「グローバル時代の研究課題と歴史研究」, 政治経済学・経済史学会2004年度秋季学術大会, 早稲田大学, 2004年
- 「新自由主義政策と排外主義傾斜の社会的経済的背景」, 日本国際経済学会第63回大会, 慶應義塾大学, 2004年

“The Economic and Social Backgrounds of Japanese Government's Cooperation with the U.S.”, Congress of Social Sciences and Humanities 2005, University of Western Ontario, London, Ontario, Canada, 2005

「グローバル経済下の格差拡大とアメリカの現状」, 政治経済学・経済史学会 2006 年秋季学術大会 共通論題報告, 明治大学, 2006 年

“The Globalization and the Consciousnesses of Middle-Class Citizens in Japan as well as in the United States”, Annual Conference for <Political and Ethical Knowledge on Economic Activities (PEKEA)>, Université de Dakar, Dakar, Senegal, 2006

「アメリカ大量消費社会とグローバリゼーション」, 社会主義理論学会第 17 回研究討論集会, 東京都豊島区民センター, 2006 年

“Toward a General Proposal for Consumption Reduction Policy among Developed Countries : As a Relation with Economic Development for the Developing Countries”, The Third Forum of the World Association for Political Economy [全体会=共通論題報告], Qinhua Daxue (Tsinghua University), Beijing, China, 2008

“Toward a General Proposal for Consumption Reduction Policy among Developed Countries : From a Global Point of View of Class Analysis”, The Congress of Social Sciences and Humanities 2008, The University of British Columbia, Vancouver, Canada, 2008

「現下の金融危機の歴史的 position」, 社会主義理論学会第 51 回研究会, 明治大学, 2009 年

“The Worldwide Consumption Reduction Policy as the General Strategy against the Contemporary Economic Crisis : For the Protection of Nature as well as Culture and Human Life”, The Fourth Forum of the World Association for Political Economy [全体会=共通論題報告], Paris, France, 2009

「現下の経済恐慌の歴史的 position」, 比較経済体制学会 2009 年度全国大会, 国学院大学, 2009 年

“The Significance of Common People’s Power to Overcome the Capitalist System”, The Fifth Forum of the World Association for Political Economy, Suzhou, China, 2010

「恐慌対策にケインズ主義回帰を期待することは反動である」, 経済理論学会第 58 回大会, 関西大学, 2010 年

“On the So-Called ‘Middle-Class Citizens’ as the Power of Changing Capitalist System”, The Sixth Forum of the World Association for Political Economy, The University of Massachusetts, Amherst, USA, 2011

“Fascist Way or Socialist Way? : On the Working Citizens’ Resistances and the Human Development”, The Seventh Forum of the World Association for Political Economy, Mexico City, Mexico, 2012

「馬場宏二氏のアメリカ資本主義論 —— アメリカ中心史観にたつ新三段階論, 投機性, そしてニューディール および グレートソサエティー をめぐって —— 」, 馬場宏二追悼研究集会, 東京大学, 2012 年

“On the so-called ‘New Middle-Class Citizens’ as the Power of Changing Capitalist System”, The Second ISA Forum of Sociology by the International Sociological Association, Buenos Aires, Argentina, 2012

パネルディスカッション「音楽が国境を越えるとき——近代における異文化接触」への予定討論，
政治経済学・経済史学会 2012 年度秋季学術大会，慶應義塾大学，2012 年

Nobuyo Goto “Fighting Against Radiation: The Emergence of New Social Movement in Fukushima” への
予定討論（英語），経済理論学会第 60 回大会，愛媛大学，2012 年

“Increasing Inequality and Poverty today: On the Understanding of the Essence of Poverty”, The Eighth
Forum of the World Association for Political Economy, Florianopolis, Brazil, 2013

松村博行「衰退する米国中間層——製造業復興への期待とその限界——」にたいする予定討論，
日本国際経済学会第 72 回全国大会，横浜国立大学，2013 年

How to Understand the Great Depression Today and the Historical Role of So-Called “Middle-Class”?, The
Ninth Forum of the World Association for Political Economy, Hanoi, Vietnam, 2014

「クラシック音楽が創作された時代と市民——クラシック音楽創作の急速な展開，そして，その
時代の終焉——」，基礎経済科学研究所 2014 年度全国研究集会，駒澤大学，2014 年

「最近の世界各国にみる右傾化の傾向について——日本の右傾化傾向をより幅広く深く考察するた
めに——」，基礎経済科学研究所 2014 年度全国研究集会共通論題報告，駒澤大学，2014 年

「ふたつの宗教戦争と南・北アメリカ社会の形成——レコンキスタとヨーロッパ宗教改革の余波
が新大陸におよんだ諸結果——」，名城大学，2014 年

「21 世紀の帝国主義」，経済理論学会第 63 回大会共通論題関連報告，一橋大学，2015 年

<受賞した学術賞>

The Distinguished Achievement Award in Political Economy for the Twenty-First Century of 2013 by the
World Association for Political Economy（世界政治経済学会 2013 年度政治経済学賞），2013 年

<社会活動——役員等>

財団法人カナモジカイ 評議員（～2014 年）

財団法人東京フィルハーモニー交響楽団 賛助会員

フランツ・シューベルト・ソサエティ 理事

財団法人川崎市生涯学習振興事業団かわさき市民アカデミー
副学長 / 企画運営委員 / カリキュラム編成委員

21 世紀国際交流会

<講演・講座>

世田谷区教育委員会 世田谷区民講座

講座「冷戦終結後のソ連情勢」，世田谷区太子堂区民センター，1991 年 8 月

講座「ソ連崩壊後の国際情勢」，世田谷区太子堂区民センター，1993年6月

財団法人川崎市生涯学習振興事業団かわさき市民アカデミー

講座「低成長時代を生きる」全12回，2005年4月～2005年7月

講座「大量消費時代をこえて」全12回，2005年10月～2006年2月

講座「グローバル化した現代世界の諸相を読み解く」全12回，2010年10月～2011年2月

講座「現代世界の大きな問題の背景を歴史から読み解く」，全12回，2011年4月～2011年7月

講座「現代経済問題を再考する —— 経済学者の提言をとおして ——」全12回，2011年10月～2012年2月

緊急講座「東日本大震災 —— 経済復興を考える」，2011年10月

講座「現代経済の諸問題を深読みする —— 経済学の歴史をとおして ——」，全12回，2012年4月～2012年7月

講演「中流市民が社会を変える時代としての現代」，2011年11月

講座「混迷を深める現代の世界経済情勢を読み解く」全12回，2012年10月～2013年2月

現代事情特別講座「ユーロ体制はもちこたえられるか」全3回，2012年10月～11月

講座「資本主義はどのようにして生まれ展開してきたのか？ —— 近代世界史とともに考える ——」，全12回，2013年4月～2013年7月

特別短期集中講座「現代人の生活と文化を再考するためのくとおき3題」全3回(1. クラシック音楽とは何か？／2. 日本人的特質はどのようにして形成されたのか？ —— 古墳時代にヒントを得る —— ／3. 労働と生活と美と —— 鴨長明，バーナード・リーチ，ウィリアム・モリスから学ぶ ——)，2011年6～7月

講座「現代経済事情 —— 各国めぐり ——」全12回，2013年10月～2014年2月

講座「経済学の基礎理論を学ぶ —— 現実の経済をとおして ——」全12回，2014年4月～2014年7月)

講座「どこへ行く？ —— 現代の資本主義 ——」全12回，2014年10月～2015年2月

講座「各国の経済はどのようにして今日見るような姿になったのか」全12回，2015年4月～2015年7月

講座「経済成長と格差拡大 —— 現実の諸問題を深読みする ——」全12回，2015年10月～2016年2月

上記の講座のほかに1999年以降ワークショップ（ゼミ形式の講座）を数次にわたって担当 —— それぞれ全12回ずつ

駒澤大学公開講座

講座「いま、アメリカを考える」全8回，2002年5月～7月

講座「混迷を深める現代世界を読み解く」全8回，2010年5月～7月

21世紀国際交流会

講演「アメリカはほんとうに変わるのか——米国の深層事情とオバマ新政権——」，2008年11月

講演「2012年アメリカ大統領選挙と市民の政治意識の変化」，2012年12月

世田谷シニアスクール

講座「われわれは何処へ向かおうとしているのか？——現代世界史が語っていること——」，
2010年度第6回講座，2010年5月